

中学生生議員登壇

12月18日、中学生議会が開催され、多古中学校の2年生12名が議員役となり一般質問を行いました。地域の課題や各種提案、疑問点など新鮮な視点と熱意に溢れる中学生議員の質問に、町職員の各係長が実際の町政運営を踏まえ、真剣に答えました。



議長を務めた白鳥瑠唯さん

1 萩原 綾音さん
多古米と町のPRについて



問 多古米の知名度向上のため、田植えや稲刈り体験と観光を結びつけることが有効だと考えます。また、SNSや特産品を通じて町の魅力を発信し観光客を増やす取り組みについて町の考えを教えてください。

答 農産物のPRとして、町外でのイベント出店や農業体験イベントの開催発信を行っています。また、インバウンド観光客の誘致を念頭におき、民間業者と連携して魅力を発信していきます。皆さんもSNSでの魅力発信のご協力をお願いします。
(企画政策課 地方創生推進係長)

2 香取 萌衣奈さん
耕作放棄地の活用方法は



問 本町でも高齢化や後継者不足により耕作放棄地が増えています。耕作放棄地の有効活用方法として、花畑やソーラーパネルに変える、中学生が農作物を育て「ジュニアブランド」として販売するなど考えられます。これらの取り組みに対する町の考えを教えてください。

答 提案は、耕作放棄地の再生・活用には有効だと考えます。喜多地区では耕作放棄地がひまわり畑に整備され、多くの人に親しまれています。また、消費者である皆さんが町の食材を積極的に購入することも農家の支援となります。耕作放棄地の増加抑制につながります。
(農業委員会 農地係長)

3 小倉 莉央さん
若者が住み続けやすい制度は



問 若者の転出が進む中、定住につながる制度が必要です。住宅補助・家賃補助・奨学金返済支援の3点について、町の考えを伺います。

答 住宅取得奨励金の拡充や民間連携による住宅整備を進め、移住支援金で若者の居住を後押しします。奨学金制度では、一定の要件で返還猶予または免除を行うことで、若者を支援し、定住につなげます。
(企画政策課 地域創生推進係長)



9 木内 実里さん
定住を促す子育て施策は



問 出産・育児パッケージ制度や子育て支援を通じ、費用対効果の高い子育て支援を行い、転入世帯を増やして地域の活性化につなげる考えを伺います。

答 出産・入学祝い金や給食費・医療費無償化など既存の子育て支援に加え、住宅支援や住宅地整備を進めることで、子育て世帯の移住・定住につながるよう取り組んでいきます。
(子育て支援課 こども係長)

10 篠崎 夢羅さん
安心できる防犯対策は



問 学校周辺や通学路などに暗く入りやすい危険な場所があります。街灯・防犯カメラの増設や地域の見守り活動強化について、町の考えを伺います。

答 街灯や防犯カメラは、各地区の皆様に計画的に設置を進めています。見守り活動については、青色防犯パトロールや子ども110番の家などに取り組んでいます。町民の皆様の協力をいただきながら、引き続き安全・安心なまちづくりを努めていきます。
(総務課 交通防災係長)

4 小川 侑留さん
町の農業のこれからは



問 農業人口の減少と高齢化により、町の農業や特産品の維持が問題です。農業をもっと身近に感じられる町にするため、どのような取り組みが必要と考えますか。

答 農業体験や食育の取り組みを進めるとともに、就農希望者への支援や農業機械の共同利用など、農業を始めやすい環境づくりに努めます。
(産業経済課 農業振興係長)



11 半田 結野さん
財政運営と施策の方向は



問 町の財政力が低い現状を踏まえ、優先順位について町の考えを伺います。税率・税制の見直しや予算配分の優先順位について町の考えを伺います。

答 町民の負担となるため税率の見直しは難しいと考え、ふるさと納税を活用して財源を確保しています。容易に優先順位は付けられませんが、子育てや教育支援を充実させるほか、企業誘致や住宅整備にも計画的に取り組むことで、町の活性化を図っています。
(財政課 財政係長)

12 山倉 菜南さん
道路整備と公共交通の今後は



問 主要道路の改良や信号最適化の充実や交通量増加への安全対策について町の考えを伺います。

答 交通量増加への対応策は、町内の交差点を安全にする事業を進めるとともに、空港周辺における道路整備計画を県と協力し、随時見直しています。公共交通は利用状況を踏まえ増便は検討していませんが、必要に応じて利便性向上を図ります。
(企画政策課 企画政策係長)

5 田山 陽菜さん
教育振興基本計画の取り組み状況は



問 多古町教育振興基本計画に掲げる家庭教育や不登校児童生徒への支援について、現在の取り組み状況と事業の成果を教えてください。

答 保護者が子育てについて学ぶ機会を提供するため家庭教育学級などを毎年実施し、家庭教育の充実に取り組んでいます。また、不登校児童生徒のための学びの場やICTを活用したオンライン授業など、多様な学習機会の提供により、個々に応じた学びの充実を図っています。
(学校教育課 学校教育係長)

6 鈴木 明莉さん
子育て世帯への住宅支援は



問 住宅地の整備が進めば子育て世帯が増え、町全体の活気につながると考えます。住宅地整備と子育て支援について、どのように取り組んでいく考えですか。

答 住宅地に適した候補地の調査を実施し、民間企業との連携などによる住宅地開発を目指しています。また、子育て支援策と一体的に進めることで、安心して暮らせる「住みたい町」を目指して取り組んでいきます。
(空港まちづくり課 都市計画係長)

7 小沼 海愛さん
ごみ減量と環境配慮は



問 家庭ごみの量や分別の課題、処理費用の増加といった現状を踏まえ、町はごみ減量や環境保全にどのように取り組む考えですか。

答 古紙・衣類・携帯電話の一回回収や、こども用品のリユース広場などにより、家庭ごみの分別やリユースの促進に取り組んでいます。また、町の情報を広報紙の他にSNSなどで配信することは、若い世代にも効果的と考えます。ごみを減量し環境へ配慮することで、持続可能な町を目指しています。
(生活環境課 環境係長)

8 石橋 茉依さん
人口減少に対する施策は



問 少子化や若い世代の流出で人口が減少しています。町独自の児童手当加算や出産・教育費支援の拡充などの人口減少対策はどのようなことを行っていますか。

答 大学生までの医療費無償化や第3子以降総額100万円給付事業など県内トップクラスの子育て支援策を展開しています。また、SNSを活用した情報発信により、町の魅力を広く紹介しています。
(子育て支援課 こども係長)